

## 「参議院選挙」

2019年07月23日

参議院選挙が終わった。何より残念に思うことは投票率の低さである。48.8%と言うから、半数以上の人投票に行かなかったことになる。政治に関心が持てない、投票に行っても社会は変わらないと思うのであろう。特に、若い層の政治離れが多いと聞く。政治は国民生活に直結している。そして、投票に行かないということは現状を支持するという社会的表明なのである。香港では、身柄を拘束した容疑者の中国への移送を可能にする「逃亡犯条例」の改正案の完全撤回を求めて、大規模なデモが繰り返されている。香港の自由と自治のために、何十万人、百万人を超すほどの学生、市民が集まり抗議行動を起こしている映像を見て、圧倒される。後になって、あの時、発言し、行動しなかったことを悔いることのないように、将来の日本を考え、現在の政治に参画してもらいたいと思う。

投票率の低さが示すように、安倍政権が過半数を獲得し、信任される結果となった。人間は元来、生活が変わらないことを願う保守的な生き物であろう。その保守性が人類を支えて来たことは確かである。しかし、あれだけ欺瞞と改竄を繰り返し、国民を愚弄してきた安倍政権を「よし」とするとは、なぜなのかと考え込んでしまう。変えることは勇気があるが、政治は不断に改革を志し、人間の尊厳を守ることを使命にしているのではないか。安倍政権の経済政策で益を受けている、外交政策を信頼しているなどで、評価する人々がいるのであろう。しかし現実には、貧富の格差による社会的な不安定さが、精神的な荒廃を深めている。外交においても、米国のトランプ大統領との親密度が増すのみで、その他の国々との関係が友好的、平和的に進んでいるとは思えない。他の政権よりはマシという消去法的な評価で、延命しているようだが、巧みな言葉で、言いくるめていく安倍首相には一刻も早く退陣してもらいたい。違いを認め合う寛容で、懐の深い政治を期待する。

私は、戦争につながる諸力と政策に反対してきた。今回の選挙で、改憲発議ができる3分の2の164議席を4議席下回ったという結果に満足している。3分の2以上あった時も、改憲は進まなかった。3分の2を切ったので、改憲は遠のいたと言えるのではないか。安倍首相は相変わらず、改憲に意欲的だが、どのアンケートでも、国民の「ノー」の声の方が大きいと報告されている。一人区は32あり、22は与党が取ったが、10の選挙区で野党が勝利した。市民連合による野党共闘は、それなりの成果を上げたと言えよう。沖縄選挙区では、今回も、野党統一候補の琉球大学名誉教授の高良鉄美氏が当選した。沖縄は常に「オール沖縄」で闘い、県民の意思表示は変わることがない。秋田では、地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」の配備計画において、防衛省の、県民を無視した杜撰な調査、初めに配備ありの意図が発覚し、騒動になった。「イージス・アショア」の配備に反対した野党統一候補の寺田静氏は、「住宅地の目の前への配備は絶対に許されない」と訴え、当選した。山本太郎氏の「れいわ新選組」が注目を集めたそうである。社会的な弱者の声を反映させたいとユニークな人を比例候補者に立てていた。私の所にも、投票依頼のメールが来た。2議席を獲得し、政治団体として認知された。政治に風穴を開けたいとの意気込みだそうだが、天皇制に関わる「れいわ」、江戸幕府に加担し、崩壊した「新選組」などという名称に同意できない。立憲民主党が躍進し、国民民主党は停滞し、社民党は消えそうである。候補者たちの熱心さには驚くばかりで、その熱意をもって、政治家らしく国民の安全と安心を図ってもらいたいと思う。ちなみに、今回の選挙で、私が投票した地方選挙区も、比例区も当選した人はなかった。